

参議院地方行政委員会會議録第三号

昭和三十八年一月三十一日(木曜日)

午前十時三十一分開会

出席者は左の通り。

委員長 石谷 憲男君
理事 西田 信一君
市川 房枝君

委員

上林 忠次君
西郷吉之助君
沢田 一精君
館 哲二君
秋山 長造君
占部 秀男君
小柳 勇君
鈴木 壽君
鈴木 賢一君
鈴木 一弘君

政府委員

自治政務次官 藤田 義光君
自治省行政局長 佐久間 彊君
事務局側 常任委員 鈴木 武君
会専門員

説明員

自治省行政 林 忠雄君
局振興課長

本日の会議に付した案件
○奄美群島復興特別措置法の一部を改正する法律案(内閣提出)

○委員長(石谷憲男君) ただいまから地方行政委員会を開会いたします。奄美群島復興特別措置法の一部を改正する法律案を議題といたします。

前回説明を聴取いたしておりますので、これより質疑を行ないます。御質疑のおありの方は、順次御発言をお願いいたします。

○西郷吉之助君 それでは、自治省に對してこの法案について質疑を数点いたします。

この法案によると、毎年度、同様に国の出資金を増額するということがございまして、この法案に非常に密接に關係いたしますのは、奄美群島に毎年復興のために国の予算を別ワケで与えておまして、その復興状況と非常に関係が深いと思ひますが、政府の關係資料の中で、「奄美群島復興事業進捗状況調査」というのがありますが、これをみますと、今日まで一回延長して、三十八年度が十年目になるようでありまして、この三十七年度までは進捗状況を見ますと、国の予算を百七億投入して進捗率は八八というふうに出ておりますが、この内訳を見ますと、第一点の「陸海空交通の整備」、これは主として飛行場の問題ですが、飛行場も本島その他の奄美群島二、三カ所ぐらい予定されておられるけれども、まだ飛行場は完成していない。これは進捗率は九一というふうに出ておりますが、現在の三十八年度一ぱいではこれはなかなか完成できないというふうには私は思ふのです。

二番目の「国土の保全」という問題、これは道路とか港湾、奄美群島の将来のためには非常に重要な問題だと思ふのですが、これはまあさらに八一%の進捗率ということになっており、これにも、現在の奄美群島の状況から見れば、まだ相当時間を要する問題だと思ひます。

また、三番目の「基幹産業の復興及び特殊産業の開発」という点、これはまあ一番問題の多い点だと思ひますが、現在まで八五%の進捗率ということ、しかしサトウキビの問題にしても、この奄美群島特有の土地改良とか、それに關する整備状況を見ると、まだまだ私はよほど農林省その他が力を入れなければ問題は解決しないのじゃないか。かなり工場等もできておりますが、今の状況では、砂糖の問題その他いろいろ問題がたくさんあって、今後相当時間を要する問題だと思ひます。

第四番目の「文教施設の復興整備」というものを見ても、これは割合に成績はいいようございまして、今日までこの国の予算のおかげで学校の整備は相当進捗して復興しておりますが、これもまだ完成したというわけにはいかない。

五番目の「保健衛生施設」というような問題でも、水道とか住宅、これはまあ鹿児島本島も貧弱でございまして、奄美群島はさらに今後大いに力を入れるべき点ではないかと思ひます。

こういう進捗状況を見ても、これは国が特別のワケで百七億も投入しておりますから、日本に復帰以来非常な目ざましい復興ぶりを見せておりますけれども、これも一回途中で延長して、三十八年度で最終年度が来るわけ

です。この今の特別措置法もこれは時限立法で、これは四十年ぐらいの期限だと思ひますが、両方考えまして、この三十八年度一ぱいのこの復興予算、これでは、まだこれを打ち切るようなことがあれば、せっかく今まで多額の予算を投入して、奄美群島もかなり見るべきものがありますけれども、三十八年度でこれを打ち切ってしまうというふうになると、私は非常に重大な問題が起きやせぬか。

よりやくこのおかげではかの土地並みになりつつある奄美群島ではあります。今の進捗状況から見ても、さらにこの復興予算の延長を今後とも続けていかなければ、御承知のとおり、鹿児島本島を見ても、あらゆる点で全国の水準以下にある。奄美群島は、さらにその水準以下の鹿児島本島よりも低いわけでありまして、ことに自治省としても、地方の問題については、地域格差の是正というよりなものが非常に今後大きい問題であるときに、これを打ち切るようなことがあれば、これは非常に重大な問題が起きます。これは奄美群島はこの復興計画に従事して生活をしている人が非常に多い。この思ふので、そういう点から考えまして、この計画を延長する必要があるにあらぬではないかと私は思ふのです。

が、今度のこの本法案の特別措置法の援助金も、最初一億ついただけども、だんだん減ってきて、明年度は五千万円になっておりますが、あの奄美群島は、内地と違ひまして、やはり金融機

関の門をくぐれないような非常に零細業者が多いので、こういう措置を設けたのですが、これについても、たしか四十年ぐらいの時限立法じゃないかと思ひますが、国の予算の延長と同時に、これもやっぱり金額を減らさないでふやしていかないと、奄美群島の復興はおくれるし、地域格差の是正という問題がなかなか解決しないのではないかと思ひますので、以上の諸点について自治省の考えをお聞きしたい。

○政府委員(佐久間彊君) ただいま御指摘のございましたように、奄美群島復興十カ年計画が三十八年度をもって終わる予定に相なっております。しかしながら、先生の御指摘のございましたように、なお奄美群島島民の住民所得も、全国的に見ても、また鹿児島本島に比べてみても、低い地位にあるわけでございますし、かつまた、これまでいたしました事業につきましても、継続して引き続いてやらなければならぬ事業もあるわけでございます。そこで奄美群島復興審議会におきまして、十カ年計画が終了いたしましたならば、復興計画としては一応終わることになりましたが、さらに復興計画とも言うべきものを検討すべきではないか、このような御意見もいただいておりますので、政府といたしまして、十カ年計画が終了いたしましたならば、それで奄美に對しましては国の援助を打ち切るといふことではなくて、ただいま申し上げました審議会の御意見の線に沿ひまして、復興計画

とも言うべきものを引き続き検討をして参りたいということで、現在検討をいたしております段階でございます。

○西郷吉之助君 審議会の意向も簡略に、簡単ではあります。わかりませんが、これは三十八年度で別ワクの予算を打ち切ることになっていると思ひますが、それを延長することにすれば、やはり法律改正を必要とするのです。が、そういう点について、この国会に提案を予定されている法案の中に、そういうものはないように思ひますが、どうなんでしょうか。

○政府委員(佐久間) 御指摘のように、現在の特別措置法は、四十一年三月三十一日までその効力を持つておるわけでございます。しかしながら、十カ年計画をさらに延長いたすということになりますれば、その法律を改正いたさなければならぬわけでございまして、あるいは審議会の御意見のように、振興計画というたようなものに切りかえらるゝといたしまして、法律の改正を必要とする考えられるわけでございまして、これはまあ三十九年度からの問題になりますので、本年中に十分検討いたしました上で、次の通常国会で御審議をいただくことにいたしました。かようなことを考へておるわけでございまして。

○西郷吉之助君 ぜひそういう方向に向かつてもらいたいと思ひますが、この点は、この十年計画をさらに延長する問題、奄美群島の死命を制する重大な問題ですから、本来ならば大臣に質問し、はっきりした答弁を聞きたいのですが、予算に出ておりますから、局長の答弁を求めますが、自治省自体としても、もちろん、審議会

が三月にあるようですが、十カ年計画を打ち切つても振興計画を立てるという今のお話ですが、まだ進捗状況を見ても一〇〇%に行つたもの一つもないし、産業の復興とかその他の文教施設等、おこなわれている施設を今後とも進捗する必要がある。由らりんでこの復興計画を打ち切るのは非常に私にはよくない。振興計画と言つても、大体同じだと思ひますが、鹿児島本県が、ほかの地域に比べてもあつちの点で格差が相当なはなしだ。奄美群島は、その鹿児島に比べても、住民所得が低いのですから、そういう諸点から考へても、また自然の環境を考へても、奄美群島はその自然の環境をもっと生かして、非常に私は国全体にも裨益するところが大い土地なんですから、そういう根本計画をもつて立てて、ほんとうに奄美群島を復興するという強い決意でやつてもならぬわけじゃないかと、もうこの計画も十年目が三十八年度一ぱいで来る。しかも、本法案の措置法を見ても、だんだん金額が減つてきておるようなことである。そのうち先細りのな計画では私はいかぬのじゃないか。ことに、この復興計画を延長することも必要ですが、本法案の特別措置法というものの金額をもっとふやしてもいい。特に奄美群島は、さつきもちよつと申しましたとおり、金融機関の門をくぐれない人が非常に多い。零細企業の人が多いので、そういう特殊事情にあるのですから、どうしても群島全体の振興計画を立てることも、やはり住民の生活を安定させるという点からいって、こういう措置法の金額をふやして零細業者の息をつかせる必要が、私は群島の特

質として、あると思ひますので、自治省においても、この十年計画を延長して振興計画を立てるとともに、本法案の措置法の金額も、奄美群島の特長事情を十分にあらわすに、むしろ今後ともこういう融資額を拡充強化して、住民の福祉のかたとしていくように、当局も特に力を入れてもらいたいという点を痛感するのですが、そういう点についての自治省の認識はどうですか。

○政府委員(佐久間) 復興事業の点と、基金の出資額の増加の点と、二つお尋ねございましたが、復興事業の点につきましては、本年度一三十八年度十四億計上をいたしまして、当初の十カ年計画に予定をいたしました額は、これで全部予定どおり支出をいたすことになるわけであります。三十七年度におきまして九〇%、八〇%成つておりましたものを、三十八年度におきましては、おおむね一〇〇%近くになるものが多からうと思ひました。そのわけでございまして、十カ年計画が終りましてからあとの、審議会でも申しすいわけは振興計画といったようなものにつきましては、ただいま検討の段階でございまして、しかとしたことは申し上げかねますが、一つの考え方といたしましては、これまでの復興計画は、道路でございまして、港、海でございまして、あるいは文教施設、民生施設といったような、生活基盤を確立する、整備するといった意味におきまして、いろいろな民生安定のための諸公共施設を整備するという点に重点が置かれておつたわけでござい

うと、産業基盤の整備という点に重点を置いて考えていくべきではないかと、このような御意見が審議会の中にも出ておるわけでございまして。いずれにいたしまして、これは十分検討をいたしまして、また関係省ともよく相談をいたしまして、できるだけ御趣旨の方向で努力をいたしたいと思つておるわけでございまして。

基金のほうにつきましては、奄美群島復興計画と対応して、今日までその出資もいたして参つたわけでございまして、復興計画のほうも、今のようになりましますならば、この新しい振興計画とも言うべきものと関連をいたしまして、それにまた対応するように、この基金の今後の業務の拡充も検討をいたして参らなうと思ひます。かように考へておるわけでございまして。

○西郷吉之助君 その産業の復興です。サトウキビとか、大島つむぎが非常にあつた主たるものですから、そのほかについてもこの振興計画というよりなことの延長を考へるということになつてくると、どうしたらあつたこの住民の生活安定ができるか、自然の環境も亜熱帯地ですから、農産物なんか非常にできる。くだものもできるのですが、そういうものに對する……、これは本来は農林省に聞かなければいかぬのでしようが、従来とも、過去十カ年周十分という振興計画がはつきり立てておるというふうに自治省は考へておられるのか、今後大いに工夫、努力をせなうか、いかぬというふうに考へておられるのか、そういう点はどうです。

○政府委員(佐久間) 農業の關係

につきましては、十年前復興当時と比べてみますと、国全体といたしまして、産業経済の条件がいろいろと変わつて参つておるもので、たとへば今お話しございましたつむぎなどというものの、今後群島の主要産業として伸びる可能性があるかどうかということにつきましては、十年前とよほど事情も変わつておるのではなからうか。サトウキビなどは、これは今後ますます伸びていくかなければならぬのではなからうかと思つておりますが、いずれにいたしまして、ただ従来の農林水産業の振興助成の考え方をそのまま延長するということではなくて、ほんとうに群島の主産業といたしまして将来伸びる可能性のあるものを選択をいたしまして、よく検討して参らなければならぬのじやなからうか、かように考へておるわけでございまして。

○西郷吉之助君 亜熱帯地域ですから、保健衛生施設というふうなものもよく注意してやつてやらなくと、あそこの生活向上ということには非常にほど遠いものがあるのじやないかと思ひますけれども、まだそのほかに自治省でも考へておられるのかどうかからないのですが、奄美群島は大きい島が幾つもあつて、その間は波が高いために、小さい漁船とかその他は渡れないのです。必ず汽船というふうなもので、大きな船でなければ島から島に行けない。しかも、そのために相当船賃も高いわけ。しかし、小舟で渡れるところなら簡単ですが、大きな船でないと波が高いために行けない。そういうふうな特殊な事情にあつて、そういう点からも、鹿児島へ来るのにも相当汽船の料金が非常に高いから来れないという

ような、来よりも来れない。船賃が相当取られるというような、そういうふうな特殊事情にあるので、こういうものも何とか考えてやらねえと、本島に来るよりも来れないというふうな声を非常に聞くし、島同士間も小さい舟では波が高いから渡れない。そういう点も非常に訴えられるのです。が、なかなか問題が解決しませんが、そういう事情もよく自治省のほうでは知っておられるのかどうか伺いた

○政府委員(佐久間彌君) 御指摘のような問題も、これまで私も何うておりましたし、今後の計画を策定いたします場合には、よく検討をして参りたいと思っております。

○西郷吉之助君 藤田政務次官が御出席になりましたから、重ねて政務次官に、大臣が予算に出ておられますので、政務次官にはつきり伺っておきたいのですが、今、自治省当局に私はこの本法案に関連をいたしまして、この本法案も四十年ぐらいの時限立法なんです。これを今後続けていっていただきたいと思いますが、これに関連して、この奄美群島の復興計画について、今日まで途中で一カ年間延長しまして、十カ年特別ワックで相当額の国の援助で復興してきたわけなんです。これが三十八年度で最終年度が参ります。この自治省の資料によりまして、まだまだ、これを三十八年度で打ち切るようなことになりまして、非常に重大なる影響を群島に与えますので、従来の復興計画、また審議会等も非常に重大な関心を持っておられるようでありまして、三十八年度以後も、奄美群島の現況にかんがみて、別ワック

予算をせむと継続していただきました。奄美群島には御承知のとおり、大企業もなかなかありませんから、その別ワック予算の關係事業に住民が従事している面が非常に大きい。そういう点から、打ち切られるようなことがあれば、今日地方行政上の格差の是正という点からいっても、貧弱な鹿児島本県にだんだん近づきつつある群島に、重大なる打撃を与えたと見られ、非常な失業率その他を出して、復興の途についた奄美群島がまた逆戻りするよう

なことがあつてはなりませんので、政務次官から、この三十八年度以後これを継続していく方向にあるというような明確なる御答弁をぜひいただきたいと思つて、政務次官にお伺いをいたします。

○政府委員(藤田義光君) 奄美群島の復興、振興に關しましては、西郷委員御指摘のとおり、私全く同感でございます。したがって、先般任期が参りました審議会の選考にあたりまして、大臣に協力しまして、新たな角度からメンバーも強化したつもりであります。十年の時限立法になつておりますが、われわれとしては、ぜひとも今後まだ引き続いてこの計画を延長して参りたい。先般の予算審議に對してしても、そういう方針を確認いたしてお

群島の復興に力を入れていただくことをお願い申し上げまして、私の質問を終わります。

○鈴木壽君 あれですか、今度の明年度の予算でさらに五千万円の融資のための基金の増減ということになつておるわけなんです。融資なり償還の大体のことはわかりませんが、このほかに、民間の金融機関からこの島のいろいろな仕事に對して融資があるのじゃないかと思つてあります。そういうものをどのくらい御当局はつかんでおられるのか。

それからいふ一つは、そういうものに対して信用保証のそれがどういふことになつておられるのか。この島の復興といふは、あるいはよりよい発展のために、政府のそういう金だけでおおと思つて、またしなければならぬと思つて、そういう立場から、今の二つの点についてお調べになつていらつしやるようでしたら、お知らせ願ひたいと思つております。

○政府委員(佐久間彌君) この基金のほかに、民間の金融機関でどのくらい貸し出しをしておるかというお尋ねでございますが、パーセントで申し上げますと、奄美群島の産業に對しまして貸し出しをいたしておりますものが、全体の二・三%が鹿児島銀行の支店で扱つております。それから、日本開発銀行が三六%、これが大きいものになつております。それから、本基金が五%といふふうになつております。そのほかいろいろ金融機関が少しづつそれぞれ関係をしてあります。金額にいたしますと、三十六年十二月末の貸し出

し残高が五十四億余に全体としてなつております。で、奄美群島復興信用基金の貸し出し額は少のうございませうが、鹿児島銀行の支店等から貸し出しを受けて参る者についての保証業務は、相当活用されておる状況でございます。

○鈴木壽君 今のはあれですか、三十六年十二月末の計でおおよそ五十四億円、このうちの二・三%が鹿児島銀行の支店から、それから三六%が開発銀行からと、こういうふうなことになるっておると、こういうお話でございます。

○政府委員(佐久間彌君) そのとおりでございます。

○鈴木壽君 この島の、何といふか、資金の需要の面からしますと、やはり相当大きいものがあると思ふ。きやならぬと思つて、そういう見なすと、そういうことのために、私やはりこの復興信用基金に對する政府の出資というものを、もっとこれはふやしてやるということを考えないといけません。いんじやないかと、これはまことにとおまかなうものではないので、私こまかいデータも持つていないので、今聞きしたようなことしかわかりませんので、少し恐縮なように感じますけれども、何かこう、もう少しこれだけでは不十分じゃないか、もっとやはり国としてもこれに對する措置といふものがより多く考えられなかならぬじゃないかと、こういうふうな思ふのであります。その一つの例として、融資状況なり申し込みの件数等からいまして、こういうことからいまして、これはいつの場合でも申し込みの百パーセントをこらうものによつ

てやるというふうなことは不可能であるにしても、しかし、もっと大きな額といふものをここに国としても考えなきゃならぬじゃないかと、こう思ふのですが、その点、これは将来の問題もございませう。たとえば、三十八年度でこの計画が終わるとしてしまつても、さらに延長するといふようなこと、ただいま政務次官からお答えがございまして、が、そういう意味からして、この点をどのようにお考えになるかひとつ承りたいと思つてあります。

○政府委員(藤田義光君) ただいま御指摘のとおりに私も感じております。特に現在農林省で、この方面の重要産業の一つであります黒砂糖の開発に關しまして、この三月一ぱいでビート振興法という時限立法が期限が参りますので、この問題に關連しても、永久法が実現しますと、相当の資金需要がこれは出てくるという可能性もありません。関係各省と連絡をとりまして、資金需要に十分配慮をして参る必要があらうかと存じております。

○鈴木壽君 これは三十八年度のはここにどういふふうな形で、これ以上今どうのこうのと言つても始まらないと思ひますが、将来の問題としても、今政務次官から、特に黒糖の問題を中心として、十分産業振興というふうな建前で相当思い切つたことを考えていかなきゃならぬといふふうにおっしゃつたと理解してよろしうございませうか。

○政府委員(藤田義光君) そのとおりでございます。

それから、ちよつと付け加えておきますが、融資業務の概要に關しまして、ここに統計がありますので、申し上げておきたいと思ひます。

三十七年度の十一月末現在で融資申し込み、融資実績と対比いたしましたし、実績率を出しておりますが、これは八・七％、三十六年度が七・〇・九％、三十五年度が七・一・一％、大体融資の実績率は三十六年度はちょっと下がりましたが、三十七年度は非常に上昇しているという数字が出ております。

○鈴木壽君 何かこういう申し込み、融資のこの率をおあげになりましたが、三十七年の十一月末ですか、それで八・七％と、こういうことをお聞きしました、この率は、単に率が上がったからということで安心できないと思うのです。これは変な言い方でありますが、これは幾ら申し込みでも信用基金というものはこういふふうになつておつたのだというもので、だんだん申し込みの件数が、実際はもっと必要であるけれども、申し込みをしなければならぬということも出てくるので、そのパーセンテージだけで成績がいいということにはならないと私は思うのであります。さつきもお聞きしましたように、民間のほうの金、こういうものから総合的に考えてみますと、私はやはり岡が、先ほど西郷先生からもお話しがございましたように、地域格差の解消とか、あるいは住民の所得の向上を進めるといふお話ですが、この開発の仕事に熱心になると、こうなる場合には、もっとやはり力を入れてしかるべきじゃないか、こういうふうにも思ふのでありますが、これは私は先ほどお答えをいたしましたから、これについてのお答えは要りませんけれども、そういう考えを持っておるのではありません。

なお、復興計画のことについて若干お聞きしたいのでありますが、最初に復興事業関係の予算でございすけれども、予算書には、三十八年度の予算として十四億六千四百五十二万五千円が計上されておるのではありません。これはトータルだけしか載っておりませんけれども、それから先日ここでお聞きをいたしました三十八年度予算の主要項目ということで、自治省関係の予算の説明の中に、奄美群島の復興計画事業関係費として十四億三千九百五十八万八千円、三十八年度としてはこういうふうな数字が出ておる。これはちょっと数字が違ふようですが、この内訳として何かいわれる復興事業関係の主要なものがないのが予算書には大まかに一とめに載つておるんじゃないかと思ふが、そこら辺、もしも少しこまかく知らせていただければと思うのでありますが、これはいかがでございますか。

○政府委員(佐久間彌君) お尋ねの点の差額でございますが、これは事務費と思ひますが、なお正確に調べました上で、お答えいたします。

○鈴木壽君 予算書の中には、復興事業関係費とそれから人件費事務費を含む額として計上されておるようでありますが、この場合にあらですか、復興事業費の中に、普通はやはり人件費なり、あるいは事務費等が含まれると思ふのですが、今局長のお話しのよう、事務費関係が落とされておるとすれば、ちょっとそこら辺普通の場合とは違ふような感じがしますが、これはいかがですか。

○政府委員(佐久間彌君) 正確なものを調べまして御報告申し上げますが、奄美群島の復興十カ年計画で、国費の総額を百二十一億ということに予定をいたしておりまして、この額の中にはネットの事業費を考えておるわけでございます。

と、こういうふうに見ておられるのかどうか、この点はどうです。

○鈴木壽君 これは、まあいたしたところじゃないと思ひますが、ちょっと数字を見た限りにおいては違ふようなところがございますから、これはあとでひとつお知らせいただきたいと思います。

この予算で、この資料には、四枚目の「復興事業進捗状況調」というのがありますが、これの三十八年度の計画には、十四億七千九百五十五万五千円、こういうふうな計上されておるのですから、そこらあたりの関係もひとつわかるようにお知らせいただきたいと思います。

○鈴木壽君 まだ残ると予想されるような事業はどういうものですか。

○説明員(林忠雄君) 振興課長の林でございます。

○鈴木壽君 三十八年度でこの計画が終ることになっておることは、先ほどからお話のあったとおりでございますが、私どもは将来さらにこういう復興事業を延長していくということについては賛成でありますし、ぜひまた、やらなければならぬと思ふのであります。まあそれはともかくとして、三十八年度までのいわゆる十カ年計画の中で、やはり一応の締めくくりといひますか、あるいは計画どおりに完了するといふことが建前ではなければならぬと思ふのであります。今度の三十八年度予算の十四億何がして、これは国庫から出る金でございますが、そういうことでいづれの事業のそれについて見ても、計画どおり一〇〇％完成できる

と、あるいはまた事業費からしましても、金の面からだけではできるようにもなつておるのではありません。それだつて実際どうかと思ふようなところが出てきますけれども、とにかくそういう金の面からだけ計画どおりできるようなことになっておると思いますが、しかし実際はどうかといふことが問題だと思ひます。

○鈴木壽君 今課長さんから資料費なり事務費なり、そういう値上りのために実際はその仕事そのものは完全な姿でできないものもあるだろう、こういうお話でございますから、実はそういうところを私は問題にしたいと思ふのであります。こういう計画を立てて十カ年計画でやるといった場合には、十年の間ですから、経済変動と申しますか、あるいは貨幣価値の変動と申しますか、これはいろいろあるものでございますから、やはりそれに対応できるだけの資金の面なり——したがって、その計画の実施の面なりをもっとこれは考えていかなければならぬのじゃないかと思ふのです。当初十年計画で百二十一億何がして、金を出すのだ、こういうことだからこれで済むのだ、こういうことでは、私はこういういわゆる復興事業とか何とかいう仕事といふものは、うまくないといふふうにも思ふのです。

私はこの計画どおり、金の面だけでない、計画どおり仕事ができても、なおかつこの奄美大島の何といひますか、産業なり、あるいはいたがって、住民のいわゆる民生安定といふようなことはなかなかむずかしい所じやないかと思ふのであります。そういう所である条件のところに、単に金だけで、

○鈴木壽君 私、この数字から見ますと、大体これは計画どおりできるような数字が出てきていますね、ただしそれは計画上の資金の面です。それは、明年度——三十八年度で予定された額が全部出るようになってお

るし、あるいはまた事業費からしましても、金の面からだけではできるようにもなつておるのではありません。それだつて実際どうかと思ふようなところが出てきますけれども、とにかくそういう金の面からだけ計画どおりできるようなことになっておると思いますが、しかし実際はどうかといふことが問題だと思ひます。

○鈴木壽君 今課長さんから資料費なり事務費なり、そういう値上りのために実際はその仕事そのものは完全な姿でできないものもあるだろう、こういうお話でございますから、実はそういうところを私は問題にしたいと思ふのであります。こういう計画を立てて十カ年計画でやるといった場合には、十年の間ですから、経済変動と申しますか、あるいは貨幣価値の変動と申しますか、これはいろいろあるものでございますから、やはりそれに対応できるだけの資金の面なり——したがって、その計画の実施の面なりをもっとこれは考えていかなければならぬのじゃないかと思ふのです。当初十年計画で百二十一億何がして、金を出すのだ、こういうことだからこれで済むのだ、こういうことでは、私はこういういわゆる復興事業とか何とかいう仕事といふものは、うまくないといふふうにも思ふのです。

私はこの計画どおり、金の面だけでない、計画どおり仕事ができても、なおかつこの奄美大島の何といひますか、産業なり、あるいはいたがって、住民のいわゆる民生安定といふようなことはなかなかむずかしい所じやないかと思ふのであります。そういう所である条件のところに、単に金だけで、

○鈴木壽君 三十八年度でこの計画が終ることになっておることは、先ほどからお話のあったとおりでございますが、私どもは将来さらにこういう復興事業を延長していくということについては賛成でありますし、ぜひまた、やらなければならぬと思ふのであります。まあそれはともかくとして、三十八年度までのいわゆる十カ年計画の中で、やはり一応の締めくくりといひますか、あるいは計画どおりに完了するといふことが建前ではなければならぬと思ふのであります。今度の三十八年度予算の十四億何がして、これは国庫から出る金でございますが、そういうことでいづれの事業のそれについて見ても、計画どおり一〇〇％完成できる

と、あるいはまた事業費からしましても、金の面からだけではできるようにもなつておるのではありません。それだつて実際どうかと思ふようなところが出てきますけれども、とにかくそういう金の面からだけ計画どおりできるようなことになっておると思いますが、しかし実際はどうかといふことが問題だと思ひます。

○鈴木壽君 今課長さんから資料費なり事務費なり、そういう値上りのために実際はその仕事そのものは完全な姿でできないものもあるだろう、こういうお話でございますから、実はそういうところを私は問題にしたいと思ふのであります。こういう計画を立てて十カ年計画でやるといった場合には、十年の間ですから、経済変動と申しますか、あるいは貨幣価値の変動と申しますか、これはいろいろあるものでございますから、やはりそれに対応できるだけの資金の面なり——したがって、その計画の実施の面なりをもっとこれは考えていかなければならぬのじゃないかと思ふのです。当初十年計画で百二十一億何がして、金を出すのだ、こういうことだからこれで済むのだ、こういうことでは、私はこういういわゆる復興事業とか何とかいう仕事といふものは、うまくないといふふうにも思ふのです。

私はこの計画どおり、金の面だけでない、計画どおり仕事ができても、なおかつこの奄美大島の何といひますか、産業なり、あるいはいたがって、住民のいわゆる民生安定といふようなことはなかなかむずかしい所じやないかと思ふのであります。そういう所である条件のところに、単に金だけで、

○鈴木壽君 私、この数字から見ますと、大体これは計画どおりできるような数字が出てきていますね、ただしそれは計画上の資金の面です。それは、明年度——三十八年度で予定された額が全部出るようになってお

るし、あるいはまた事業費からしましても、金の面からだけではできるようにもなつておるのではありません。それだつて実際どうかと思ふようなところが出てきますけれども、とにかくそういう金の面からだけ計画どおりできるようなことになっておると思いますが、しかし実際はどうかといふことが問題だと思ひます。

○鈴木壽君 今課長さんから資料費なり事務費なり、そういう値上りのために実際はその仕事そのものは完全な姿でできないものもあるだろう、こういうお話でございますから、実はそういうところを私は問題にしたいと思ふのであります。こういう計画を立てて十カ年計画でやるといった場合には、十年の間ですから、経済変動と申しますか、あるいは貨幣価値の変動と申しますか、これはいろいろあるものでございますから、やはりそれに対応できるだけの資金の面なり——したがって、その計画の実施の面なりをもっとこれは考えていかなければならぬのじゃないかと思ふのです。当初十年計画で百二十一億何がして、金を出すのだ、こういうことだからこれで済むのだ、こういうことでは、私はこういういわゆる復興事業とか何とかいう仕事といふものは、うまくないといふふうにも思ふのです。

私はこの計画どおり、金の面だけでない、計画どおり仕事ができても、なおかつこの奄美大島の何といひますか、産業なり、あるいはいたがって、住民のいわゆる民生安定といふようなことはなかなかむずかしい所じやないかと思ふのであります。そういう所である条件のところに、単に金だけで、

○鈴木壽君 三十八年度でこの計画が終ることになっておることは、先ほどからお話のあったとおりでございますが、私どもは将来さらにこういう復興事業を延長していくということについては賛成でありますし、ぜひまた、やらなければならぬと思ふのであります。まあそれはともかくとして、三十八年度までのいわゆる十カ年計画の中で、やはり一応の締めくくりといひますか、あるいは計画どおりに完了するといふことが建前ではなければならぬと思ふのであります。今度の三十八年度予算の十四億何がして、これは国庫から出る金でございますが、そういうことでいづれの事業のそれについて見ても、計画どおり一〇〇％完成できる

と、あるいはまた事業費からしましても、金の面からだけではできるようにもなつておるのではありません。それだつて実際どうかと思ふようなところが出てきますけれども、とにかくそういう金の面からだけ計画どおりできるようなことになっておると思いますが、しかし実際はどうかといふことが問題だと思ひます。

○鈴木壽君 今課長さんから資料費なり事務費なり、そういう値上りのために実際はその仕事そのものは完全な姿でできないものもあるだろう、こういうお話でございますから、実はそういうところを私は問題にしたいと思ふのであります。こういう計画を立てて十カ年計画でやるといった場合には、十年の間ですから、経済変動と申しますか、あるいは貨幣価値の変動と申しますか、これはいろいろあるものでございますから、やはりそれに対応できるだけの資金の面なり——したがって、その計画の実施の面なりをもっとこれは考えていかなければならぬのじゃないかと思ふのです。当初十年計画で百二十一億何がして、金を出すのだ、こういうことだからこれで済むのだ、こういうことでは、私はこういういわゆる復興事業とか何とかいう仕事といふものは、うまくないといふふうにも思ふのです。

私はこの計画どおり、金の面だけでない、計画どおり仕事ができても、なおかつこの奄美大島の何といひますか、産業なり、あるいはいたがって、住民のいわゆる民生安定といふようなことはなかなかむずかしい所じやないかと思ふのであります。そういう所である条件のところに、単に金だけで、

今度これで済むのだというような考え
方であつては、私は残念だと思つし、そ
ういう意味においては、やはり十年間
に経済変動なり物価の変動に対応でき
るだけのやはり措置を講じてきてもら
いたかつたというふうに思ふのであり
ます。これは今こゝまで来て、どうの
ころのと言つてもあるいは始まらぬか
もしれませんが、今後延長されるとい
うような場合には、私はよほど――よ
ほどどこにやらない、そういうところ
をまず第一に考えていかないと、これ
はいつまでたつても復興計画というも
のはうまくいかないのじゃないか、こ
ういうふうに思ふのです。これは政務
次官あたりから、そういうことに對す
る考え方をひとつお聞きしてみたいと
思ふのであります。

○政府委員(藤田義光君) 全く私も鈴
木委員の御発言に同感であります。こ
れは予算面から見ますと、大体三十七
年度で計画の九〇％に到達し、ことし
で一〇〇％いくやうであります。実
際上、事業の進捗度は相当おくれれてお
ります。それで新しい年度計画を策定
するにあたりまして、立ちおくれた十
年計画の跡始末を最優先にやるべきで
はないかと思ひます。それと同時に、
新規方面に資金投入ということを考え
ていくという方向で研究したいと思つ
ております。御指摘のとおり、三十八
年度の計画が終りましても、内地の
生活水準の昭和九年か十年程度の生活
水準にやつと追いつくというふうで、
個人の名目所得を見ましてもまだ惨た
んたる状況でありまして、引き続き従
来以上の強力な方途を考えなくちゃい
かぬのじゃないかと思つております。

からでも課長さんからでもけつこうで
ございまして、金の面だけでなしに、
実際の仕事の面での進捗率というふう
なものを、これはあなたの方お調べに
なつておられませんか。たとえば、
さつきお話をしましたように、港灣と
いつてもまだ防波堤の延長が不十分だ
とか、あるいは空港がどうかといふ
ようなお話もございしましたが、そうい
う問題を含めて、実際の計画、ほん
の完成すべき姿のそれと、今の現状
からするそれと、進捗の状況をこれ
何かお調べになつておりませんか。

○政府委員(佐久間彌君) 調査いたし
ているものはございしますが、後でまた
御提出いたしたいと思ひますが、おも
なものを例示的に申し上げますと、道
路にいたしまして、県道につきまして
は、昭和三十八年度までにおおむね八
〇％改修される見込みでございまして、
自動車台数も、昭和三十一年から三
十六年の間に約二倍程度伸びておりま
す。ただ、こういう道路につきまして
も、産業基盤を作るというよりも、む
しろ生活に必要な最小限度のものが整
備されているというふうな状況と存じ
ます。

それから港灣につきましては、復帰
当時は船舶が接岸できる港がございま
せんでしたが、ただいままで名瀬、
古仁屋、龜徳というふうな三つが接岸
可能な状況になつております。大型の
船舶が出入りできる港はまだございま
せん。

それから文教関係につきましては、
小中学校の校舎は、これはこれまで一
番力を入れて参つておりますので、ほ
ぼ整備されております。特に台風の関
係もございまして、構造は鉄筋なり

ブロック建築でいたしている状況でござ
います。

保健衛生関係につきましては、県立
の大島病院を初めといたしまして、各
町村に診療所が設置されております。
水道もこれまで重点的に力を入れて
参つておりますので、現在普及をいたし
ておりますので、三十八年度には五
二％くらいまで見込めるものと存じて
おります。

以上、例示的に申し上げましたよう
に、これまでは生活基盤を整備する、
民生安定のために必要な公共施設を整
備するといふ点に重点を置いて参つて
おるわけでございまして、そういう点
では、ほぼ三十八年度までで目標に近
いところまで行くんじゃないかろうか。
しかし、先ほどいろいろ御指摘のござ
いましたような公共事業、積極的な産
業基盤を作るための事業といつたよう
なものは、まだ非常におくれていると
いふ状況かと存じております。

○鈴木壽君 今、大よそのところはお
聞きしましたが、あとでまた資料を
いたしたく、こういうことでございま
すから、私、それについてひとつ、こ
れは今すぐといつても、むしろ不可能
なことだと思ひますから、ずつとあと
でもいいたいと思ひますが、よくお調べの
上にお願ひしたいと思ふのでありま
す。それはさつき申し上げましたよう
に、実態をほんとうにつかんで、計画
そのものをひとつ踏まへながら、それ
が実際のどの程度になつてゐるのか、
こういうものをぜひお願ひしたいと思
ふのであります。そうでないといふと、こ
れは将来の、三十八年度で一応終わ
るのであります。三十九年度以降の、
たとえはこの計画をさらに延長すると

いつても、また単なるペーパー・プラ
ンみたいなものになつてしまつて、
せっかく相当な国費を使い、その他の
費用を使つてやつた仕事は、何年たつ
ても、いつまでも変な工合で停滞して
いる、こういうことになりかねないとい
思ひますから、どうかひとつそういう
意味で、その資料の作成には今言つた
ことを盛り込んでぜひやつていただき
たいといふことをお願ひをしておき
たいと思ひのであります。

私、実際はこの奄美の状況は全然わ
かりませんが、いろいろ現地を見ら
れた方々のお話を聞きました。いわ
ゆる公共施設的なものは、さつきお話
がございしましたのですけれども、相当
よくなつておる。たとえば学校とか、
あるいは港灣とか、あるいは一部の道
路とか、こういうものは相当つづばに
なつておるんだ、こういうことを聞く
のであります。しかし、反面、これ
も局長から今お話がございしましたよう
に、住民の生活程度、こういうものに
なりまして、非常に低いところに依然
として置かれておる、こういうことが
この低い住民の生活、これをいかにし
てレベルを引き上げていくかといふこ
とが、これからの仕事でなければなら
ませんし、そのためには、単に公共的
な施設をよくするとかなんとかとい
う、そういうことだけでなしに、實際
の住民がよつて立つ自分たちの仕事、
大きくいへば産業といふものが、非常
に重要な振興といふものが、非常に
大きなウェイトを占めてこななければな
らぬのじゃないか、こういうふうに思
うのであります。先ほど西郷先生から
も御指摘がございましたが、たとえ

砂糖の問題なり、あるいは、つむぎの
問題なり、その他のいろいろ産業振興
といふことを本格的に取り上げていか
なければ、住民の生活をだんだん引き
上げていくといつても、単にそれはか
ら念仏に終わるのじゃないか、こうい
うふうに思ふのであります。

関連してお聞きしたいのであります
が、最近のここの住民のいわば所得の
状況なんか、お調べになつたのはござ
いませんか。

○政府委員(佐久間彌君) 所得の状況
を申し上げますと、住民一人当たりの
名目生産所得が、昭和二十八年に復帰
当時は一万九千五百四十八円ござい
ます。全国平均が六万七千五百八十一
円でございますので、二八・九％でござ
います。昭和三十五年におきま
しては、住民一人当たり名目生産所得
が五万二千四百二十一円となりまし
て、全国平均が十二万二千六百七十二
円でございますので、四二・七％に向
上いたしておりますが、まだ全国平均
の半分に達してないという状況でござ
います。昭和三十八年度末に十九年
計画が終りましたときには、昭和九
年から十一年当時の本土の生活水準に
ほぼ到達し得る、そういう見通しをい
たしておるわけでございまして。

○鈴木壽君 今おあげになりました数
字を見ましても、非常に低いところに
住民の生活状況が置かれておるとい
うことはわかると思ふんですが、昭和
三十五年で全国の四二・七％にしかさ
ぎない、こういうことよりでありま
す。昭和三十八年度末において、昭和
九年とか十年、そのころの内地の国民
の所得水準になるのじゃないか、こ
ういふことなんでしょうね。昭和九

年とか十年とかいうことよりも、今それからしますと、国民全体としてはこれは相当な開きがある状況、その状況に、ようやく、三十八年度のいろいろな復興事業等が終つたあとに、なるのじゃないか、こうなりますと、まことに心細い感じがするわけなんです。で、さつき申し上げましたように、いろいろな公共的な仕事をどんどん拡充していくことも非常に大事なことであります。むしろ大事だといふよりも、基礎になつていかなきゃならぬと思ひますが、さらに、その住民の實際生活そのものに直接つなげておるところの産業の状況ですね。よつて立つところの生計の基盤になる産業のその状況は、私さつきも申し上げましたように、それはたいへん大事な問題だと思ひのであります。

で、これはあとで農林省の方から、たとえば黒糖の問題なりその他の農産物の問題ですね、こういうことにつきまして、計画あるいは実際の状況等をお聞きしなければならぬと思ひておられます。こういうのに対する、たとえば黒糖の問題ですね、自治省として一体どういうふうな現状を把握し、将来どういうふうな形になつていくか、——これは実はいろいろなむずかしい問題もあると思ひのです、黒糖の問題はですね、これは一つの例であります、そういうことにつきまして、ひとつ、主要産業といふか、あるいはこれからと振興させていかなきゃならぬというそういう産業についての、自治省としての見方、あるいは考え方、こういうものをひとつ、この際、明らかにしていただきたいと思ひのであります。

○政府委員(佐久間重君) 黒糖は、この奄美群島におきまして産業の中心として最も重視をいたしておるわけでございます。いままでの復興計画の中におきまして、この関係の経費は相当計上をいたしておられます。明年度におきまして、これはまだこれから年度計画を立てるわけでございますが、この関係の経費を重点的に計上いたしまして、最近の自由化の動向に対処いたして参りたい、かように考えております。

○政府委員(藤田義光君) 現地の資金需要等からしまして、ただいま局長が答弁しました黒糖、それから畜産等に相当島民の関心が強くなつてきておるようでありまして、実は黒糖に關しましては、農林省の国内甘味資源対策というものが浮動しておりまして、今後の見通しを正確に把握することが非常に困難な状態であることを残念に思ひております。また選択的拡大に伴ひまして、畜産振興ということに相当やっておりますが、この群島における畜産振興の計画というものはまだ確立してない現状でございます。この点に關しましては、いづれ農林省からもまた答弁があるかと思ひますが、自治省としましては、農林省の、黒糖及び新しい成長財である畜産、これに對してどの程度の見通しを持つておるのかというところが、まだ正確に自治省に實は報告が来ておりませんし、連絡してあつた率直に申し上げておきたいと思ひます。

○鈴木壽君 私、非常に大事なことなんだと思ひますが、今政務次官から正直にと、こういうふうなお話

で、これ以上これはとやかくあるいは言われなくてもいいかもしれませんが、これはやっぱり、こういう計画を立てる際、これは先ほどからも何べんも申し上げておるうちに、昭和三十八年度でこれは一応終る計画でございますから、こういう時点で、農林省関係なりその他の関係省庁の間で十分やつぱりその現状をどう見るのか、その現状の把握の仕方あるいは将来どうすべきであるのかという、こういうことについて、もつとお互に煮詰まつたものがあつてしかるべきだと、こう思ひのであります。たとえ

ば、これはあとで農林省から、さつきも申し上げましたように聞かなければならぬと思ひますが、さて何かばらばらな感じを受けるわけですね。従来も私、そういう感じを受けて、農林省の方々の話をね、全体の一つの計画として、総合計画として、それはもちろん実施面ではそれぞれの各省庁にこれはわたつておることでございますけれども、こまかいことまでどうのこうのといふことは、これは私も言うべきじゃないと思ひますけれども、ただしかし、またさつきも申し上げましたように、現状をどう見、将来どう振興計画はどうかと、それに對するうちとした煮詰まつたものがなければならぬと思ひます。これはひとつ政務次官、あなたはまあ、そういう立場に——これはやっぱり各省庁の一つのまとめ役として頑張つていただきたいと思ひます。そうでないと、これはあなたの方で、おそろく農林省で黒糖対策なり、あるいはこれから分密糖

への切りかえを一体どうするか、あるいはパイナッフルを今盛んにやつておるようであります。バナナも苗圃を作つてやつておるようであります。一体これがどうなつておるかという、ただ数字の上で、それこそ計画的に数字の上で何%できたとか何とかといふことしかわかつておらないのじゃないかと思ひます。

それでは、少し酷なような言い方でありましても、やつぱり担当しておられる皆さんのそれとしては不十分じゃないかと思ひます。どうかひとつ特に私、政務次官に率直に要望するのは、そういう点で十分これは各省庁との間に煮詰めた一つの対策を持つていただきたい、こういうことなのでございます。ぜひひとつ、その点をおやりいただきたいと思ひます。

○政府委員(藤田義光君) 御指摘のとおり、群島における黒砂糖工場等が乱設されて、むしろ昨今の状況によれば島民の産業振興が、かえつてこれで乱れるというふうな声も二、三耳にいたしております。第三次計画の策定に当たりましては、基幹産業を中心とした、すつきりした計画を立ててもらうにつきては、自治省としましては、関係各省と常時連絡をとつて、御指摘の点を十分ひとつといたしまして、まああれわれの在任は非常に短かくなりまして、在任中にできればという方向で、これはぜひ私も、私の郷里のすぐ近くでございますので、——私事を述べて恐縮でございますが、非常な関心を持つてやつておりますので、できるだけひとつすつきりした姿で、今度の第三次計画だけは軌道に乗せたといふ念願しております。

○鈴木壽君 欲張つたようなことをまた要望するわけですが、政務次官、第三次計画という、むしろ三十八年度の計画、これは四月からやつぱり実施されるのでございます。その前にですね、三月中旬にひとつさつき申し上げたような現状、さらに将来どうするかといふことを、きつとひとつお願いしたいと思ひますが、いかがでございますか、その点。

○政府委員(藤田義光君) 国内甘味資源対策に關しましては、偶然三月一ぱいで現在の時限立法が期限が参りますので、新しい永久法策定に当たりましては自治省の立場を相当強硬に主張するつもりでございます。その他畜産振興等の産業新年度に入るに当たりまして、自治省としての要望をひとつ十分検討の上、関係各省に伝えたい、こういうふうな考えでございます。

○鈴木壽君 たとえば黒糖の生産の問題であります、私、現時点でどういふふうになつておるか、これは調べがそこまでついておりませんので、二年ばかり前のことなのでありますが、小工場がたくさんあるわけなんです。十トンあるいは十五トン、この程度が大部分で、あとまあ三、五十トンというふうなもの、二、三ありますけれども、さらに一トンの、まあ工場といえるかどうかかわりませんが、とにかく、そういうのが何百とあるわけですね。こういう状況から、一方で大企業といふか、相当大きな、百トン程度の大型の工場がまた二つばかり出ている、こういう状況であつたと思ひます。さつきも申し上げましたように、私は、昭和三十八年の今の時点ではわかりませんが、その間の——大

工場と、そういう小さな工場との間の問題、さらにサトウキビの値段の問題、こういう非常にややこしい問題があるわけなんです。そして一方、国には、政務次官もお答えになったように、甘味資源の対策として、たとえば今後十年間にこれくらいの国内の需要量があるだろう、これをカンシヨでどのくらい国内で充足していくかという、いろいろな計画があるわけなんです。そういう計画があるとすれば、一体この地域に——これはサトウキビの一つの適地と見られるでありまして、から——そしてまた、それに依存しなければならぬような現状でございすから、そういう所に一体どう生産を振り分けして、ここにある程度の量を確保できるようにしていくかというようにならなければならぬと思うのです。そういうものがどうもないようであります。ですから、私はやはりそういうところにむだ金とはいいませんけれども、いろいろな金を貸したり何かやっても、やはり成績が上がらないという一つのこと、あるいは先の明るい見通しというものが無いところに、これはやはり住民にがんばれと言ったところで、あるいは生産を増強させなければならぬと、こう言ったところで、これはなかなか大へんなことなのであります。こういう計画が今後の、これからの奄美の復興事業計画の中に、きちんと位置づけられなければならぬと私は思うのです。そういう点も私は、実はいろいろな注文として申し上げたいことなっております。そういう意味での意図した計画というものが見られなければならぬし、そういう計画を実際

遂行するための、裏づけとなる政府の資金なりあるいは民間の資金なり、あるいは住民の金なり自己資金なりという、そういうものを十分勘案しながら常にやっていかなければならぬと、こういうふうに思うのであります。いずれ、ひとつそういう面では——黒糖の問題は一つの例として申し上げたのでございすけれども、たとえば水産業にしたって、私、いろいろな問題があると思うのであります。こういう点につきまして、あとでひとつ——先ほど御要望申し上げたように、ぜひひとつ實際やはりやらなければいけないことなんでしょうから、そういうものをお願いしておきたいと思ひます。いずれ具体的な産業振興の問題等につきましては農林省のそれも聞かなければならぬと思ひますので、それはまた後日に譲って、きょうは私は以上で終りたいと思ひます。

○委員長(石谷憲男君) 本案についての本日の審議は、この程度にいたしたいと存じます。

次会は二月五日午前十時開会の予定でございます。

それではこれにて散会いたします。

午前十一時四十三分散会

昭和三十一年二月五日印刷

昭和三十一年二月六日発行

参議院事務局

印刷者 大蔵省印刷局